

【戦後 81 年企画】終戦直後、連合軍捕虜、浜名湖から祖国へ — 映像と証言でたどる捕虜帰還の実像 —

1945（昭和 20）年 9 月 4 日から 9 日まで、愛知、岐阜、三重、長野、富山の 5 県の収容所から、英米などの連合軍捕虜約 2800 人が特別列車で浜名湖西岸の新居（あらい）町駅へ運ばれました。捕虜たちは、米軍の上陸用舟艇で病院船へ移送され、横浜経由で厚木飛行場などから祖国へ帰還。戦後も 81 年が過ぎ、戦争の記憶の風化が懸念される折、終戦直後の浜名湖での連合軍捕虜帰還の様子を取り上げていただければ幸いです。

【映像】（出典：米国立公文書記録管理局（NARA）／6 分 36 秒）

- ・上陸用舟艇で病院船に着く連合軍捕虜
- ・浜名湖を進む上陸用舟艇と乗船する捕虜
- ・新居町駅の様子
- ・集団下校する女子生徒・学生

【証言】 9 月 4 日、長野県の収容所の捕虜 306 人は、満島（みつしま）駅（現在の平岡駅）から新居町駅へ向かった。その一人である英国人ウィリアムズ氏（1916-94）は、病院船に着くとシャワーを浴びて米軍支給の服に着替え、軍医の診察を受けた。約 4 年ぶりの洋食で空腹を満たした後、ラウンジで新聞記者の取材に応じた。その夜、駆逐艦で横浜港へ移送され、厚木飛行場から沖縄・マニラを経由して帰国したという（下記「証言」p.73-75）。



ウィリアムズ氏
提供：Caroline Tyner

ウィリアムズ氏は、ロンドンで 2 年間新聞記者として働いた後ケンブリッジ大学に進学し、英植民地省に入省した。マキン島（現キリバス共和国）に勤務していた 1941 年、太平洋戦争が始まり、島に上陸した日本軍の捕虜となり日本へ送られた。対米謀略放送への協力を拒否したため長野県のダム工事現場へ送られ、終戦まで重労働を課せられた。戦後日本軍への協力を拒否した行動が評価され、英国政府から勲章を授与された。

	イメージ	QR コード	URL
映像			bit.ly/4uJkHBD
証言	ウィリアムズの太平洋戦争 戦の最から大戦下の日本へ 		https://tinyurl.com/yzb3ewc9

【問合せ先】名倉有一（なぐら・ゆういち）＝近現代史研究者

〒431-1304 浜松市浜名区細江町中川 7399-708

電話（携帯）：090-4449-2966、（自宅）：053-439-2937

E-mail：nagura95@gmail.com

1950 年、浜松市生まれ。大学卒業後、金融機関に勤務。NPO 法人インテリジェンス研究所特別研究員。中公新書『日の丸アワー／対米謀略放送物語』（徳川慶喜の孫・池田徳眞（のりぎね）著）を読み、同書に登場する英国人捕虜ウィリアムズ氏に関心を持つ。在職中に始めた調査を近年報告書にまとめ、捕虜撤収の舞台となった新居町の図書館や、ウィリアムズ氏の母校であるケンブリッジ大学の図書館などに寄贈している（前ページ「証言」p.154）。

【ご参考】

【資料 1】 POW 研究会ホームページ

終戦時、日本には約 3 万 3 千人の連合軍捕虜が収容されていた。

なお、国内の捕虜収容所数は約 130 カ所（「証言」p.45 脚注）。

【資料 2】 俘虜情報局『俘虜引渡実施一覧表』

新居町駅から撤収した捕虜数（県別）

愛知県 273 人／岐阜県 313 人／三重県 577 人／長野県 306 人／富山県 1348 人
（計 2817 人）

【資料 3】 静岡新聞（1945 年 9 月 6 日付）

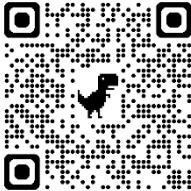
「日本国民は親切 浜名湖 引揚俘虜第一声」「引揚は超速度 米舟艇の機械化」と題し、浜名湖から病院船へ移送される連合軍捕虜の様子、上陸用舟艇による迅速な輸送、地元住民・関係者の協力などを詳しく報じている。

【資料 4】 舞阪町史研究会編『喜佐志満 3 昭和二十年の舞阪』

捕虜撤収を目撃した地元住民による座談会を収録（p.16-26）。

【資料 5】 杉浦克巳『艦砲射撃のもとで 新居の戦争／捕虜送還』

著者は毎日新聞社で東京本社社会部長、『サンデー毎日』編集長などを歴任。退職後、故郷・新居町で関係者への聞き取りを行い、本書を自費出版した。

資料	資料目次				https://tinyurl.com/y66wruwm
	資料 No.	資料名	ページ		
	1	POW 研究会ホームページ	p.1-2		
	2	俘虜情報局『俘虜引渡実施一覧表』	3-6		
	3	静岡新聞（1945.09.06）	7		
	4	舞阪町史研究会編『喜佐志満 3 昭和二十年の舞阪』	8-40		
	5	『新居の戦争 艦砲射撃のもとで／捕虜送還』	41-55		

以上